

ユーザーマニュアル

日本語



レポートオプション Perception

文書版第 1.0 号 - 2009 年 7 月

Perception 6.0 以降

HBM の規定条件については、ウェブサイト www.hbm.com/terms を参照してください。

HBM GmbH
Im Tiefen See 45
64293 Darmstadt
Germany
電話 : +49 6151 80 30
ファックス : +49 6151 8039100
電子メール : info@hbm.com
www.hbm.com/highspeed

Copyright © 2009

不許複製・禁無断転載。本出版物のどの部分も、
出版者の書面による許可なく、いかなる形式またはいかなる手段によっても、複製または転載することはできません。

使用許諾契約と保証

使用許諾契約と保証の詳細につきましては、www.hbm.com/terms を参照ください。

目次	ページ
1 レポートオプション	7
1.1 はじめに	7
1.1.1 レポータオプションのインストール方法	7
1.1.2 レポータのワークエリア	8
1.2 オブジェクトの操作	10
1.2.1 オブジェクトを挿入する	10
1.2.2 オブジェクトを選択する	11
1.2.3 複数のオブジェクトを選択する	11
1.2.4 オブジェクトを移動する	12
1.2.5 オブジェクトをスケーリングする	12
1.2.6 オブジェクトを積み重ねる	13
1.2.7 余白、グリッド、およびラベル	13
1.3 オブジェクトの容器	15
1.3.1 容器のプロパティ	15
1.3.2 例	16
1.4 オブジェクト属性	17
1.4.1 配置とサイズ調整	17
1.4.2 オブジェクト位置をロックする	18
1.4.3 オブジェクトを各ページで繰り返す	18
1.4.4 境界枠の表示	19
1.5 オブジェクトアライメント	20
1.6 ページのナビゲーション	21
1.6.1 ズームの選択	21
1.6.2 ズームエリアの移動	22
1.6.3 ページの選択	22
1.7 レポートメニュー	25
1.7.1 レポートのセットアップ	25
1.7.2 グリッド設定	27
1.7.3 ページの挿入/削除	28
1.7.4 レポートのロード	28
1.7.5 レポートを保存する	30
1.7.6 レポートを画像として保存する	30
1.7.7 レポートのリフレッシュ	30
1.7.8 レポートを印刷する	31
1.7.9 Microsoft ワードにレポートを転記する	31

1.7.10	レポートシートを別のワークブックに移動する	31
1.8	設計ツール	32
1.8.1	ポインタ/セクタ	32
1.8.2	表示部を挿入します。	33
1.8.3	表を挿入します。	35
	カーソルテーブルの追加設定	43
	ユーザテーブルの追加設定	43
1.8.4	テキストを挿入します。	44
1.8.5	グラフィックオブジェクトを挿入する	47
1.8.6	画像を挿入する	48
1.8.7	ヘッドとフッタを配置する	51
1.8.8	ズームしたエリアをスクロール/パンします。	54
1.8.9	ズーム	54
1.9	ワードへのレポート	56
1.9.1	はじめに	56
1.9.2	リンクの一覧を作成する	56
1.9.3	項目をリンクする	59
1.9.4	リンクされたオブジェクトを持つワードのレポートを生成する	60

1 レポートオプション

1.1 はじめに

直感的に利用できるレイアウトとグラフィックツールを採用した Perception レポートは、レポートの生成においてこれまでにない優れた特性を発揮します。Perception ソフトウェアと緊密に連携して作動する WYSIWYG レポートはプロ向けに設計されたレポートを提供し、テスト環境において自然なワークフローを提供します。データと結果は、コピーも読み込みも行われずにレポートの中に自然に流れ込みます。

レポートには、テキスト、ヘッダとフッタ、図、表、画像、および表示のためのツールが含まれています。それぞれのツールには、一定の範囲のバックグラウンドおよびボーダーのオプションが搭載されています。

記録された波形、詳細な波形、計算結果、およびシステム設定に至るまでのデータをレポートに記載します、更新は、クリックを一回するだけで実行できます。

レポートのオプションで利用可能になるレポートシートの他に、ワードへのレポートという機能もインストールされています。

標準のクイックレポートが常に新しい空の文書を生成し、オブジェクトをそれぞれ下に配置するように、レポートツーワード (Report to Word) オプションは Perception のオブジェクトを事前に定義したテンプレート内の場所に配置することを可能にします。これにより、テストが終了する毎にワードによるレポートを全く同じレイアウトで作成することができます。

1.1.1 レポートオプションのインストール方法

Perception のソフトウェアには HASP キーが必要です。HASP (違法コピーソフトウェア防止ハードウェア) は、ソフトウェアアプリケーションの不正使用を防止するハードウェアをベースとした (ハードウェアキーによる) ソフトウェアの違法コピー防止システムです。

それぞれの HASP キーには、購入した特性とオプションに応じてアプリケーションをパーソナライズするために使用する固有の ID 番号が含まれています。このキーは、ライセンスパラメータ、アプリケーション、および顧客固有のデータを保存するためにも使用されます。

レポートオプションを個別のアイテムとして購入した場合、パーソナライズされた「キーファイル」が送られます。このファイルを使用して追加機能のロックを解除してください。

ヘルプ ▶ Perception についての順に選択すれば、シリアル番号を見つけることができます。

キー情報の更新方法 :

- 1 ヘルプ ▶ キーの更新...の順に選んでください。

- 2 開くダイアログでキーファイル (*.pKey) を見つけ、開くをクリックします。
- 3 問題がなければ、以下のメッセージが表示されます。



イラスト 1.1: ソフトウェアのコピー防止ダイアログ

- 4 OKをクリックします。
- インストールを行ったら、ヘルプ ▶ Perception について ▶ 詳細の順に選択し、すべてのオプションがインストールされているか確認してください。

変更を有効化させるために、ソフトウェアを再起動する必要があります。これでレポートのオプションを使用することが可能です。

1.1.2 レポートのワークエリア

レポートのワークエリアを以下に示します。

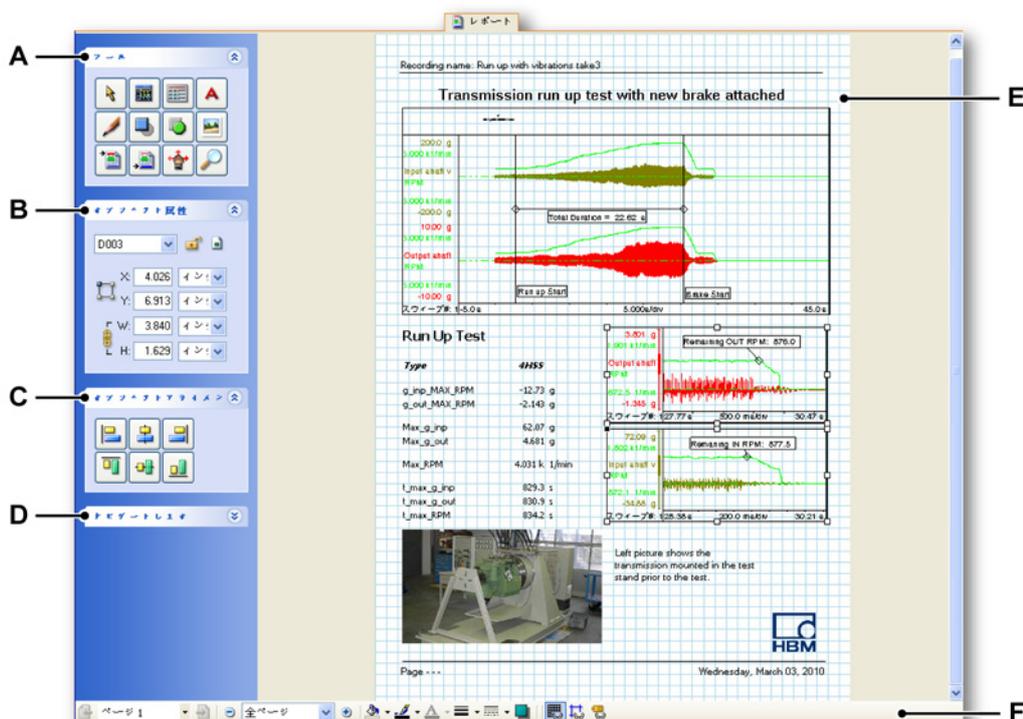


イラスト 1.2: レポートのワークエリア

- A 設計エレメントとオブジェクトを生成するためのツール。

- B 選択された項目の属性。
- C アライメントにより、選択したオブジェクトをお互いに揃えることができます。
- D サムネイル表示を使用した成果の表示を素早く変更するナビゲータ。
- E 文書のワークエリア
- F ボトムツールバー

レポートのワークエリアに存在するツールバーに加え、レポートシートが有効であるときにメニューバーに表示される「レポート」という関連メニュー、およびツールバーエリアの上部に表示されるその他のツールバーがあります。

1.2 オブジェクトの操作

ツールのパレットは、レポートのレイアウトを構築するために使用するツールで構成されます。



これらのツールを使用して、独自のレイアウトを作成することができます。キーボードアクセレータを使用して、ツールにアクセスすることも可能です。各ツールには、それぞれ固有の種類のカursorが存在しています。

オブジェクトを挿入および操作するためのツールを選択してください。

1.2.1 オブジェクトを挿入する

オブジェクトを挿入するための方法は 2 つあります。

- ツールが選択された状態で、ページエリアをクリックします。
- ツールが選択された状態で、ページエリアをクリックしてドラッグします。

一回のクリックでオブジェクトを挿入する方法：

- 1 挿入したいオブジェクトのツールを選択してください。マウスのカーソルをページエリアの上に合わせると、選択されたツールに合わせてカーソルの形が変化します。通常、2本のヘアラインの交点は「ホットスポット」を定義します。
- 2 ページエリアで、オブジェクトを表示させたい場所の左上にホットスポットを配置します。マウスボタンをクリックして、ボタンから指を離します。
- 3 オブジェクトのサイズを指定するための測定ダイアログが表示されます。



- 4 必要な変更をしてください。

- 5 OK をクリックして受け入れてください。キャンセルをクリックして、10×10mm のデフォルトのプレースホルダを作成します。
- 6 これに関連するプロパティのダイアログが表示されます。

ドラッグを行ってオブジェクトを挿入する方法：

- 1 挿入したいオブジェクトのツールを選択してください。マウスのカーソルをページエリアの上に合わせると、選択されたツールに合わせてカーソルの形が変化します。通常、2本のヘアラインの交点は「ホットスポット」を定義します。
- 2 ページエリアで、オブジェクトを表示させたい場所の左上にホットスポットを配置します。マウスをドラッグしてオブジェクトエリアを定義します。
- 3 これに関連するプロパティのダイアログが表示されます。

この章の後の部分で説明するように、関連するプロパティのダイアログで必要に応じて変更を加えることができます。

ヘッダとフッタは位置が固定されていることにご注意ください。

1.2.2 オブジェクトを選択する オブジェクトの選択方法：

- ポインタ/セクタツールを選択し、希望するオブジェクトをクリックしてください。これで以下のことが行えます。
 - オブジェクトをクリックし、別の位置にドラッグします。
 - 右クリックして、オブジェクトのコンテキストに応じて変化するメニューにアクセスします。
 - オブジェクトをダブルクリックして、関連するプロパティのダイアログを呼び出します。

1.2.3 複数のオブジェクトを選択する

移動させたり、揃えるために複数のオブジェクトを選択することが可能です。

複数のオブジェクトの選択方法：

- ポインタ/セクタツールを選択し、以下のいずれかを実行してください。
 - 選択するオブジェクト周囲にある境界枠をクリックし、ドラッグしてください。境界枠がオブジェクトを含めるために、部分的に重なって表示される場合があります。
 - SHIFT キーを押さえながら、希望するオブジェクトをクリックします。最後に選択に追加されたオブジェクトは、「リファレンス」オブジェクトになります。

1.2.4 オブジェクトを移動する

オブジェクトがロックされていない場合、オブジェクトをページエリア内で自由に移動させることができます。

オブジェクトの移動方法：

- 1 マウスのカーソルをオブジェクトの上に合わせると、マウスカーソルの形が変わって、オブジェクトを移動できることを示します。
- 2 移動したいオブジェクトをクリックしてください。
- 3 選択したオブジェクトをワークエリア内の新しい位置にドラッグしてください。グリッドへのスナップが ON であるとき、オブジェクトは固定した位置にスナップします。グリッドへのスナップが OFF であるとき、SHIFT キーを押した状態に維持してグリッドへのスナップに一次的にドラッグすることができます。
- 4 マウスボタンから指を離して、オブジェクトを希望する位置に配置します。

1.2.5 オブジェクトをスケーリングする

オブジェクトのスケーリングを行って、水平方向（X 軸に沿って）、垂直方向（Y 軸に沿って）、または両方の方向に拡張または縮小することができます。境界枠のハンドルを使用してオブジェクトのスケーリングを行うことができます。

オブジェクトのスケーリング方法：

- ハンドルを選択し、境界枠のハンドルの位置とは反対の方向にスケーリングを行います。または、
- 属性パレットで設定を行います。

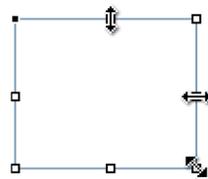


イラスト 1.3: オブジェクトスケーリングの可能性



ヒント

オブジェクトのスケーリングを行う間に SHIFT キーを押し下げた状態に維持すると、オブジェクトの幅と高さが等しくなります。オブジェクトを配置するときもこのようになります。ライン上で SHIFT キーを使用し、角度を 45 度の倍数に制限します。

オブジェクトのスケーリングを行う間に CTRL キーを押し下げた状態に維持すると、オブジェクトの比率は制限されます。すなわち、幅と高さの関係は変化しません。

スケーリングを行う間に ALT キーを押し下げた状態に維持すると、アンカポイントがオブジェクトの中央に一次的に設定されます。

境界枠に関する詳細については、「境界枠の表示」ページ 19 を参照してください。

1.2.6 オブジェクトを積み重ねる

Perception レポートは、ページ上で描かれたオブジェクトを古いものから順次積み重ねます。オブジェクトの積み重ね方法によって、それらが重なったときの画面での表示方法、および印刷時の表示方法が決まります。

オブジェクトの積み重ねの順序はいつでも変更することができます。前に配置および後に配置の各コマンドを使用することで、オブジェクトを積み重ねの一番上に配置するか、一番下に配置することができます。

オブジェクトを積み重ねの一番上または一番下に配置するための方法：

- 1 移動させたオブジェクトを選択してください。
- 2 右マウスクリックでコンテキストメニューを呼び出し、**整理 ▶**を選択します。
- 3 表示されるサブメニューで**前に配置**、または**後に配置**を選択します。

複数のオブジェクトの積み重ねでオブジェクトを 1 個ずつ移動させるには、上記の手順を繰り返し実施する必要があります。

1.2.7 余白、グリッド、およびラベル

文書エリアで、表示補助物を表示または非表示にすることができます。以下の表示補助物を使用することができます。

- **プリンタ余白**プリンタ余白は、使用しているデフォルトのプリンタの設定による定義に応じて余白を表示します。プリンタ余白は、黒色の点線として表示されます。
- **ユーザ余白**ユーザ余白は、レポートセットアップのダイアログで個別に設定されます。余白はカラーのラインとして表示されます。線の色はレポートセットアップのダイアログで指定されます。
- **グリッド**グリッドはグリッド設定のダイアログで定義されます。グリッドはカラーのラインとして表示されます。線の色はグリッド設定のダイアログで指定されます。
- **ラベル**ラベルを使用してオブジェクトを識別します。

表示オプションは、下部ツールバーにあるトグルボタンを使用して設定することができます。

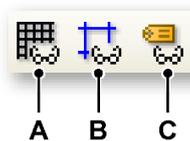


イラスト 1.4: レポートの表示補助物

- A グリッドを表示/非表示にする
- B ユーザ余白を表示/非表示にする
- C オブジェクトラベルを表示/非表示にする

1.3 オブジェクトの容器

各オブジェクトは、容器の中に配置されます。オブジェクトを挿入するとき、容器の境界を定義します。デフォルトでは、容器のサイズとオブジェクトのサイズは同じで、多くのオブジェクトのために相互にロックされています。

各オブジェクトは容器の中に配置されるため、容器のプロパティを通して様々なレイアウトのオプションが設定されます。

1.3.1 容器のプロパティ

容器のプロパティは以下の通りです。

- 線のスタイル、線の太さ、および線の色
- 背景の色
- 影

オブジェクトのタイプに応じて、これらのプロパティが明確に示される場合とそうでない場合があります。

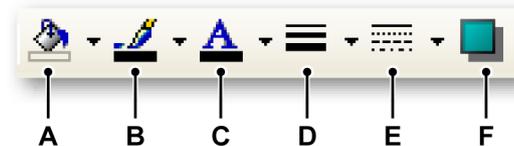


イラスト 1.5: オブジェクトの容器のプロパティ

- A 塗りつぶしの色
- B 線の色
- C 文字の色
- D 線の幅
- E 線のスタイル
- F 影

1.3.2 例

以下に例をいくつか示します。



左側のグラフィック：

- 塗りつぶしの色 = なし
- 線の色 = 黒色
- 線の幅 = 小

中央のグラフィック：

- 塗りつぶしの色 = 緑色
- 線の色 = 赤色
- 線の幅 = 中

右側のグラフィック：

- 塗りつぶしの色 = 白色
- 線の色 = なし
- 線の幅 = なし
- 影 = 色を灰色に設定した 1 mm

1.4 オブジェクト属性

レポートページに示されるすべてのオブジェクトには位置、サイズ、およびラベルがあります。位置は、オブジェクトのアンカポイントの X 座標と Y 座標で定義されます。サイズは幅と高さの値で定義されます。レポートには各オブジェクトのラベルが存在します。オブジェクトの位置をロックすることができます。複数のページでオブジェクトを繰り返すことができます。オブジェクトの比率を制限することができます。

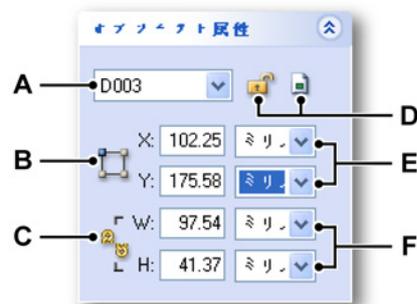


イラスト 1.6: オブジェクト属性のパレット

- A アクティブな (表示された) ページ上で使用できるオブジェクトの一覧
- B アンカポイントセレクタ
- C 縦横比を固定
- D 位置のロック - ページでの繰り返し
- E アンカポイントの座標
- F オブジェクトの幅と高さ

1.4.1 配置とサイズ調整

レポートのページ上でオブジェクトの配置をサイズの調整を直接行うことができます。詳細については、"オブジェクトを移動する" ページ 12 および "オブジェクトをスケーリングする" ページ 12 を参照してください。配置とサイズ調整を正確に行うため、オブジェクト属性を使用してください。各オブジェクトにはラベルが印されており、ラベルの表示を切り換えるには下部ツールバーにある  ボタンを使用してください。

属性を使用してオブジェクトを配置する方法：

- 1 オブジェクトを選択する方法： レポートのページにあるオブジェクトにマウスのカーソルを合わせてクリックするか、一覧からオブジェクトを選択してください。
- 2 正しいアンカポイントを選択する方法： アンカポイントのアイコン  をクリックしてコーナを順に切り換えます。アクティブなアンカポイントがハイライト表示されます。
- 3 X 座標と Y 座標のために必要な値を入力します。

属性を使用してオブジェクトのサイズを調整する方法：

- 1 オブジェクトを選択する方法：レポートのページにあるオブジェクトにマウスのカーソルを合わせてクリックするか、一覧からオブジェクトを選択してください。
- 2 現在のアスペクト比を保持するには、比率を制限するアイコンをクリックします。アイコンが「リンク済み」の記号に変化します。再度クリックすると「リンク解除」となります。
- 3 幅と高さのために必要な値を入力します。サイズの変更は、現在アクティブなアンカポイントに応じて行われることにご留意ください。

1.4.2 オブジェクト位置をロックする

オブジェクトを誤って動かすことのないように、オブジェクトの位置をロックすることができます。

オブジェクト位置をロックする方法：

- 1 オブジェクトを選択する方法：レポートのページにあるオブジェクトにマウスのカーソルを合わせてクリックするか、一覧からオブジェクトを選択してください。
- 2 オブジェクトをロックするアイコンをクリックして位置をロックします。アイコンが「ロック済み」アイコンに変化します。再度クリックすると位置のロックが解除されます。

1.4.3 オブジェクトを各ページで繰り返す

- 1 オブジェクトを選択する方法：レポートのページにあるオブジェクトにマウスのカーソルを合わせてクリックするか、一覧からオブジェクトを選択してください。
- 2 繰り返すアイコンをクリックして繰り返すダイアログを呼び出します。



- 3 このダイアログでは、このオブジェクトを繰り返したいページ範囲を設定することができます。
- 4 上記のようにオブジェクトの位置をロックしたい場合は、**オブジェクトをロックする**を選択します。
- 5 **OK** をクリックして設定を有効にします。
- 6 繰り返すアイコンを再度選択すると、繰り返しの設定が削除されます。



ヒント

繰り返すオブジェクトを含む範囲にページを挿入すると、新しいページにもオブジェクトが挿入されます。オブジェクトを繰り返す範囲の後にページを直接追加するときもこのようになります。

ノート オブジェクトの繰り返しが最初に発生するページでのみ、オブジェクトを繰り返す機能を削除することができます。

ノート レポートに含まれるページが1枚だけのときは、この特性を使用することはできません。

1.4.4 境界枠の表示

レポートのページで、オブジェクトの境界枠が現在の状態に関する視覚的なフィードバックを提供します。開いたハンドルは単一のオブジェクトを、灰色のハンドルは繰り返されたオブジェクトを示します。黒色のハンドルはアンカまたはホットスポットを定義します。アンカに十字が含まれる場合、オブジェクトはロックされています。

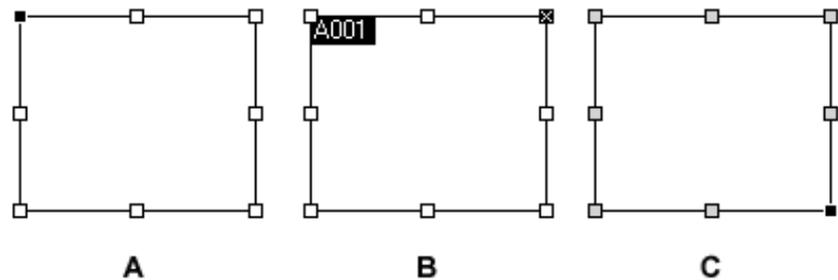
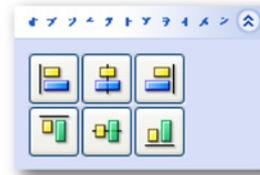


イラスト 1.7: 境界枠の表示例

- A 標準の境界枠、左上角部のアンカ
- B ラベルを持つ標準の境界枠、右上角部のアンカ、ロック済み
- C 繰り返されるオブジェクト、右下角部のアンカ

1.5 オブジェクトアライメント

オブジェクトアライメントのパレットを使用して、指定した軸に沿って選択されたオブジェクトを揃えます。



以下のアライメントモデルを利用できます。

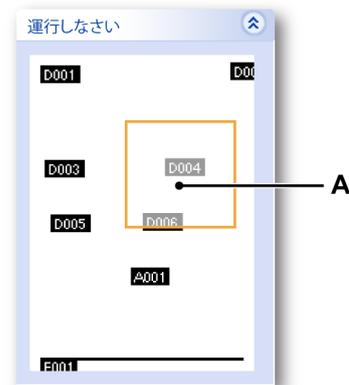
-  左揃え
-  中央揃え
-  右揃え
-  上揃え
-  上下中央揃え
-  下揃え

オブジェクトを揃える方法：

- 1 揃えたいオブジェクトを選択してください。複数のオブジェクトを選択する方法については、「複数のオブジェクトを選択する」ページ 11 を参照してください。
- 2 アライメントのタイプを選択します。

1.6 ページのナビゲーション

ナビゲートのパレットを使用して、サムネイル表示を使用した成果の表示を素早く変更します。ナビゲートのパレットにあるカラーの枠は、文書ウィンドウで現在表示することが可能なエリアを示します。



A ズームエリア

ナビゲートのエリアには、リファレンスのためのラベルを持つオブジェクトが表示されます。

1.6.1 ズームの選択

下部ツールバーにあるズーム選択コントロールを使用して事前定義したズーム係数を利用するか、ツールのパレットにあるズームツールを使用してページエリアにズームエリアを自由に設定します。

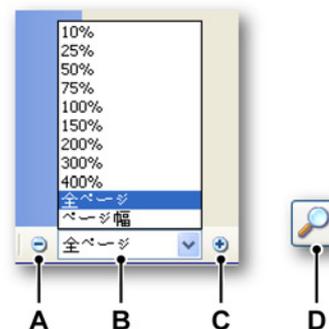


イラスト 1.8: レポータのズームツール

- A ズーム係数を小さくする
- B ズーム係数を選択する
- C ズーム係数を大きくする

- D ツールのパレットにあるズームツール：フリースタイルのズーム。クリックおよびドラッグして、ズームエリアを選択します。

A ズームレベルを小さくする

小さくするボタンをクリックしてズームアウトします。クリックを1回行う毎に、設定されている次に小さいパーセンテージに表示が小さくなります。ページが最大限の縮小レベルに到達すると、ボタンは淡色表示されます。

B ズームレベルを選択する

ズームレベルのポップアップメニューをクリックして、ズームレベルを選択します。

C ズームレベルを大きくする

大きくするボタンをクリックしてズームインします。クリックを1回行う毎に、設定されている次に大きいパーセンテージに表示が拡大されます。ページが最大限の拡大レベルに到達すると、ボタンは淡色表示されます。

D ズームツールの使用

ドラッグを行って拡大する方法：

- 1 ズームツールを選択します。
- 2 拡大したいページの部分をドラッグします。

1.6.2 ズームエリアの移動

ズームレベルがフルページを超える場合、ズームエリアのインジケータがナビゲートエリアに示されます。このエリアをクリックして、新しい位置にドラッグすることができます。マウスから指を離すと、レポートのページが更新されます。

ツールのパレットにあるパンツールを使用して、ズームエリアを他の位置にスクロールすることができます。

1.6.3 ページの選択

下部ツールバーのページ選択コントロールを使用して、複数のページがあるときはこの中を移動することができます。

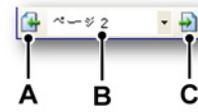


イラスト 1.9: レポートのページツール

- A 前のページに移動
- B ページの直接選択
- C 次のページに移動

ページを追加する方法 :

- 1 メニューで、レポート ▶ ページを挿入...の順に選択します。
- 2 表示されるダイアログで



- 挿入したいページ数を選択してください。
 - 選択されたページの前または後を選択してください。
 - あるページを挿入地点として選んでください。
- 3 終わったら、OK をクリックします。

または、選択ツールがアクティブの状態ではページエリアを右クリックしてください。表示されるコンテキストメニューで、前にページを挿入または後にページを挿入を選択してください。

ページの削除方法 :

- メニューで、レポート ▶ ページを削除の順に選択します。
- または、選択ツールがアクティブの状態ではページエリアを右クリックしてください。表示されるコンテキストメニューで、ページを削除を選択します。

1.7 レポートメニュー

レポートメニューには、レポートハンドリングに関連したコマンドが一覧表示されます。レイアウトと内容を管理するには、文書エリアの左側に示されるツールを使用してください。

レポートメニューは、レポートシートが最も上にあるとき、つまり表示されているときにのみ使用することができます。



1.7.1 レポートのセットアップ

レポートセットアップメニューのコマンドは、レポートセットアップのダイアログを開きます。このダイアログを使用して、グローバル文書のプロパティを定義します。

レポートセットアップのダイアログへのアクセス方法：

- 1 メニューバーにあるレポートをクリックしてください。
- 2 レポートメニューで、レポートのセットアップ...をクリックします



イラスト 1.10: レポートのセットアップのダイアログ

- A 文書のセットアップ
- B ページのセットアップ
- C ユーザ余白

レポートのセットアップのダイアログで、ページの番号とサイズ、方向、およびユーザ余白という文書のグローバルプロパティを設定します。

文書のセットアップ方法：

- 1 グローバル文書設定を行います。
 - ページ番号文書の最初のページ番号を設定します。ページ番号は、後で必要に応じて追加または削除することができます。
 - 最初のページ番号デフォルトでは、ページ番号が 1 から始まるように設定されています。しかし、別の文書の後に自分の文書を追加した場合、ここでページ番号を変更することができます。ページ番号は、ヘッダおよびフッタのオブジェクトの変数として使用することができます。
 - 単位デフォルトの測定単位を設定します。
- 2 ページのサイズと方向を設定します。
 - サイズ事前に定義したサイズのいずれかを選択し、カスタムサイズを設定します。幅や高さを変更するときは、サイズが自動的にカスタムに設定されます。
 - 方向縦方向または横方向を選択します。
- 3 ユーザ余白を設定します。
 プリンタ余白ではなく、自分自身のユーザ余白を視覚的な補助として設定し、他のプリンタでも正常に印刷されることを確認することができます。ここでは、余白だけでなく、余白を表示するために使用する線の色を設定します。下部のツールバーに示される余白を表示ボタンを使用して、表示を切り換えることができます。
- 4 OK または適用をクリックして完了します。

1.7.2 グリッド設定

文書領域にグリッド線を追加することができます。これらのグリッド線は視覚的な補助として使用するほか、オブジェクトをスナップ表示するために使用されます。

グリッド設定のダイアログへのアクセス方法：

- 1 メニューバーにあるレポートをクリックしてください。
- 2 レポートメニューでグリッド設定...をクリックしてください。



イラスト 1.11: グリッド設定のダイアログ

- A グリッド設定
- B スナップ設定

グリッドの設定方法：

- 1 グリッド設定を行います。
 - **グリッドを表示**を選択して設定を変更します。実際の表示は、レポートの下部のツールバーに示される**グリッドを表示**ボタンを使って切り換えることも可能です。
 - **色の一覧**で、グリッドの色を選択します。
 - **スタイル**を選択してください。ここでは、線または点を選ぶことができます。
 - **グリッド線のすべての設定**を使用して、グリッド線の間隔を設定します。
 - オブジェクトをグリッドにスナップ表示したい場合は、**グリッドにスナップ**を選択してください。ここでは、スナップ表示のためにより高い解像度を設定することも可能です。例えば、可視性を確保するためにグリッド線の間隔を 10 mm に設定する場合があります。**グリッド線毎のスナップ**のための値として 2 を設定すると、表示されないスナップグリッドが 5 mm の間隔で設定されます。
- 2 OK または **適用** ボタンをクリックして選択内容を有効化します。

1.7.3 ページの挿入/削除

ページの挿入はいつでもどこでも行うことができます。

ページを挿入する方法：

- 1 メニューで、**レポート ▶ ページを挿入...**の順に選択します。
- 2 表示されるダイアログで



- 挿入したいページ数を選択してください。
 - 選択されたページの前または後に挿入を選択してください。
 - あるページを挿入地点として選んでください。
- 3 終わったら、**OK**をクリックします。

または、選択ツールがアクティブの状態ではページエリアを右クリックしてください。表示されるコンテキストメニューで、**前にページを挿入**または**後にページを挿入**を選択してください。

ページの削除方法：

- メニューで、**レポート ▶ ページを削除**の順に選択します。
- または、選択ツールがアクティブの状態ではページエリアを右クリックしてください。表示されるコンテキストメニューで、**ページを削除**を選択します。

1.7.4 レポートのロード

前に保存したレポートを読み込むことができます。これにより、すべての画像とデータソースへのリファレンスを含むレポートのレイアウトが読み込まれます。

レポートを読み込む方法：

- 1 以下のいずれかを実施してください。
 - メニューで、**レポート ▶ ページを読み込む...**の順に選択します。
 - ツールバーに存在していれば、**レポートを読み込む...**ボタンをクリックしてください。

- 2 表示されるレポートを読み込むダイアログで、レポートファイルを選択してください。以下を選択することができます。
 - レポートに名前を付けて保存...オプションを使って*.pReportLayout ファイルとして前に保存されたレポートファイル
 - 仮想ワークベンチファイル*.pVWB に含まれるレポートレイアウト
 - 記録ファイル*.pNRF に含まれるレポートレイアウト
- 3 開くボタンをクリックします。

1.7.5 レポートを保存する

バックアップのためにレポートを保存することができます。レポートを以下のファイルとして保存することができます。

- 外部のスタンドアロンのレポートファイル、*.pReportLayout ファイル
- 仮想ワークベンチファイルの一部
- 記録ファイルの一部

ノート レポートを仮想ワークベンチまたは記録ファイルの一部として保存する場合、ファイルに含まれる「古い」レポート情報は上書きされます。これ以外のデータは変更されません。

レポートファイルの保存方法：

- 1 以下のいずれかを実施してください。
 - メニューで、**レポート ▶ レポートに名前を付けて保存...**の順に選択します。
 - ツールバーに存在していれば、**レポートに名前を付けて保存ボタン**をクリックしてください。
- 2 表示されるレポートに名前を付けて保存ダイアログで、**タイプとして保存**一覧ボックスにある上記のオプションのいずれかを選択し、ファイルの名前を入力します。
- 3 **保存**をクリックしてください。

1.7.6 レポートを画像として保存する

標準的な保存機能の他に、レポートを画像ファイルとして保存するためのオプションがあります。これでデータの表現方法が含まれて固定されます。一般的に使用されるサードパーティの多くのアプリケーションに含めるための「標準的な」*.emf フォーマット、または特定の*.pReportData フォーマットを選択します。

レポートを画像として保存する方法：

- 1 Perception メニューで、**レポート ▶ レポートを画像として保存...**の順に選択します。
- 2 表示されるレポートに名前を付けて保存ダイアログで、**タイプとして保存**一覧ボックスにある上記のオプションのいずれかを選択し、ファイルの名前を入力します。
- 3 **保存**をクリックしてください。

1.7.7 レポートのリフレッシュ

レポートはオンザフライで、または自動的に更新されません。ある変数または表示を挿入すると、現在の値と波形が表示されます。

レポートの更新/リフレッシュ方法：

- Perception メニューで、**レポート ▶ レポートをリフレッシュ**の順に選択します。または
- 上部ツールバーが表示されているときはその中でリフレッシュボタンをクリックします。
- また別のシートに切り換えてレポートシートに戻るとき、レポートは更新されます。

1.7.8 レポートを印刷する

標準の印刷手順を用いて、レポートのコピーを印刷することができます。

レポートを印刷する方法：

- 1 以下のいずれかを実施してください。
 - メニューで、**レポート ▶ ページを印刷...**の順に選択します。
 - ツールバーに存在していれば、**レポートを印刷...**ボタンをクリックしてください。
- 2 表示される印刷ダイアログで選択を行ってください。
- 3 **OK** をクリックします。

1.7.9 Microsoft ワードにレポートを転記する

レポートをワードに直接転記することができます。このコマンドを使用する前に、ワードが有効化されている必要があります。このコマンドを選択すると、新しい文書がワード内に作成されます。レポートの各ページが、ワード文書でページを作成します。データはメタファイルとして配置されます。

ワードにレポートを転記する方法：

- Perception メニューで、**レポート ▶ レポートをワードに転記**の順に選択します。または
- 上部ツールバーが表示されているときは、その中でレポートをワードに転記ボタンをクリックします。

1.7.10 レポートシートを別のワークブックに移動する

複数のワークブックのオプションがインストールされていれば、レポートシートを別のワークブックに移動することができます。

レポートシートを移動する方法：

- 1 Perception メニューで、**レポート**を選択します。
- 2 シート「**レポート**」の**移動先**で、利用可能ないずれかのオプションを選択します。
 - 新しいワークブックで新しいワークブックを作成し、そこにレポートシートを挿入し、また
 - すでに作成されたワークブックにレポートシートを挿入します。

1.8 設計ツール

ツールのパレットは、レポートのレイアウトを構築するために使用するツールで構成されます。



以下のツールを使用して、独自のレイアウトを作成することができます。また、以下の一覧に括弧で囲んで示されるキーボードアクセラレータを使用して、ツールにアクセスすることも可能です。各ツールには、それぞれ固有の種類のカursorが存在しています。

-  ポインタ/セクタ (S)
-  表示部を挿入する (D)
-  レポートテーブル、ユーザテーブル、またはカーソルテーブルを挿入する (T)
-  テキストを挿入する (A)
-  線を引く (L)
-  長方形を挿入する (R)
-  ヘッダを配置する (H)
-  楕円形を挿入する (E)
-  画像を挿入する (I)
-  フッタを配置する (F)
-  ズームしたエリアをスクロール/パンします。
-  ズーム

1.8.1 ポインタ/セクタ

オブジェクトを変更する前に、周囲のオブジェクトからそれを隔離する必要があります。これは、オブジェクトを選択することで行えます。選択されたオブジェクトは、オブジェクトの移動とスケーリングを可能にする境界枠を表示します。"境界枠の表示" ページ 19 を参照してください。オブジェクトを選択したら、それを編集することができます。

ノート ロックされたオブジェクトはスケーリングも移動も行えません。("オブジェクト位置をロックする" ページ 18 を参照してください。) しかし、オブジェクトのプロパティにアクセスすることは可能です。

選択ツールを使用すれば、特定の場所をクリックまたはドラッグすることでオブジェクトやオブジェクトのグループを選択することができます。 詳細については、"オブジェクトを選択する" ページ 11、"複数のオブジェクトを選択する" ページ 11、"オブジェクトを移動する" ページ 12、および"オブジェクトをスケーリングする" ページ 12 を参照してください。

1.8.2 表示部を挿入します。

"オブジェクトを挿入する" ページ 10 に説明するように、表示部を挿入します。 以下のいずれかのオプションを使って、表示部オブジェクトのプロパティにアクセスします。

- 表示部オブジェクトを配置すると、すぐにプロパティのダイアログが表示されます。
- マウスのカーソルを表示部のオブジェクトに置き、オブジェクトをダブルクリックします。
- オブジェクトを右クリックしてください。 表示されるコンテキストメニューで、**プロパティ...**を選択します。

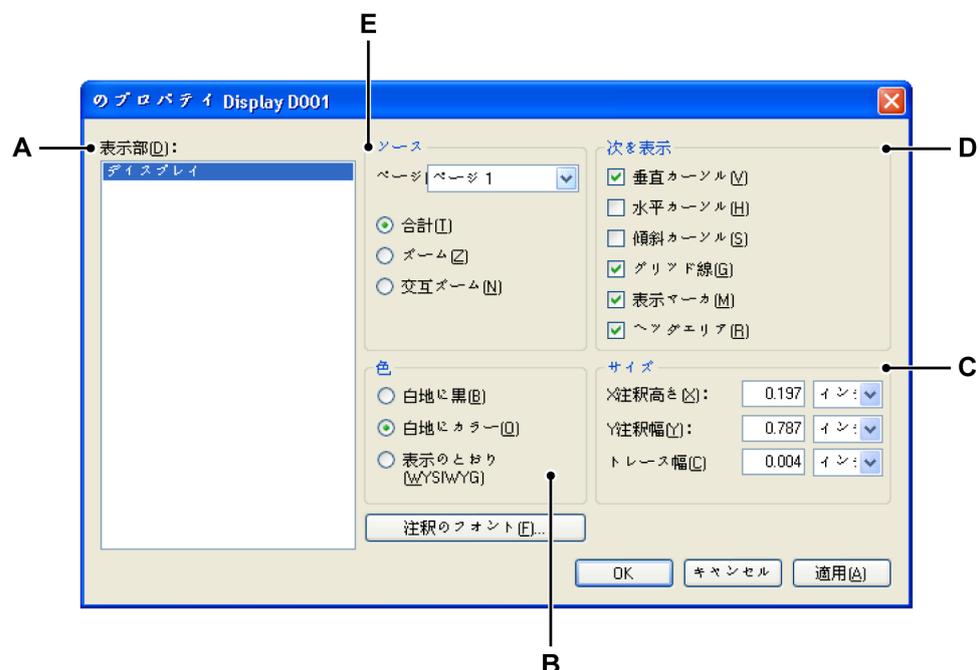


イラスト 1.12: レポータ表示部オブジェクトのプロパティ

A Perception で利用できる表示部の一覧

B 出力したい色

- C 注釈の大きさ
- D カーソル、グリッド、マーカ、およびヘッダの可視性に関するオプションを示します。
- E ソースの選択：表示部のページおよびビューの選択：全体、ズーム、または代替ズームビュー

A Perception で利用できる表示部の一覧

挿入された表示部の名前

B 色の好み

お使いのプリンタの種類および (または) 好みに応じて、この表示部オブジェクトのための色出力のタイプを選択することができます。

- 白地に黒色：すべてのテキストおよびグラフィックによる情報が黒色で印刷されます。
- 白地にカラー：すべてのテキストおよびグラフィックによる情報が、元の表示部で使用されている色で印刷されます。
- As-is (現状のまま) (WYSIWYG)：表示部は、背景色を含め定義された通りの印刷を正確に行います。



ヒント

色の好み... 「白色」(背景)として指定されていても、背景は実際には透明になります。オブジェクト容器の背景色を使用することで、表示部の元の背景色に関係なく背景色をお好みの色に設定することができます。詳細については、「容器のプロパティ」ページ 15 を参照してください。

C 注釈の大きさ

このセクションを使用して、注釈のために確保したいエリアの大きさを調整します。この大きさは、実際の表示部のために設定した大きさに関連付けられません。

この設定により、レポートに示す正確な波形エリアを定義することができます。波形エリアの幅 = 表示部の幅 - 注釈の幅。

高さについてもこれを使用することができます。

D カーソル、グリッド、マーカ、およびヘッダの可視性に関するオプションを示します。

表示セクションは、カーソルやグリッドという表示部の様々な視覚補助物で構成されています。表示部にメニューが表示されているときのみ、メニューはレポートにも示されます。表示部に表示されていない場合は、このダイアログの設定に関係なくレポートにも表示されません。

さらに、ヘッダエリアを表示または非表示にすることを選択できます。ヘッダエリアには、記録の名前、カーソル値、および表示部のイベントバーに標準的に配置されるその他の情報が示されます。

マーカとは、関心の対象になる地点や範囲を示す目的で表示部に配置されるラベルです。これらのラベルの表示または非表示を選択することができます。

E ソースの選択

ここでは表示させたい表示部のソースを選択します。ページ一覧により、選択された表示部の中でページを1つ選択することができます。

オプション一覧により、使用したい表示部の部分を選択することができます。

1.8.3 表を挿入します。

テーブルは、レポートの中で頻繁に使用されるオブジェクトです。Perception レポートに含まれるテーブルは、セルの列とカラムによって構成されています。セルはテキストフレームに似ており、この中にテキストやデータソースを書き加えることができます。テーブルにヘッダを持たせることができます。

また、テーブルをカーソルテーブルのコピーとして設定することができます。これで、列とカラムの数および内容が固定されています。テーブルに関する他のすべてのプロパティは、通常の方法で設定することができます。

"オブジェクトの操作" ページ 10 で説明されるように、テーブルを挿入します。以下のいずれかのオプションを使って、テーブルオブジェクトのプロパティにアクセスします。

- テーブルオブジェクトを配置すると、すぐにプロパティのダイアログが表示されます。
- マウスのカーソルをテーブルのオブジェクトに置き、オブジェクトをダブルクリックします。
- オブジェクトを右クリックしてください。表示されるコンテキストメニューで、**プロパティ...**を選択します。

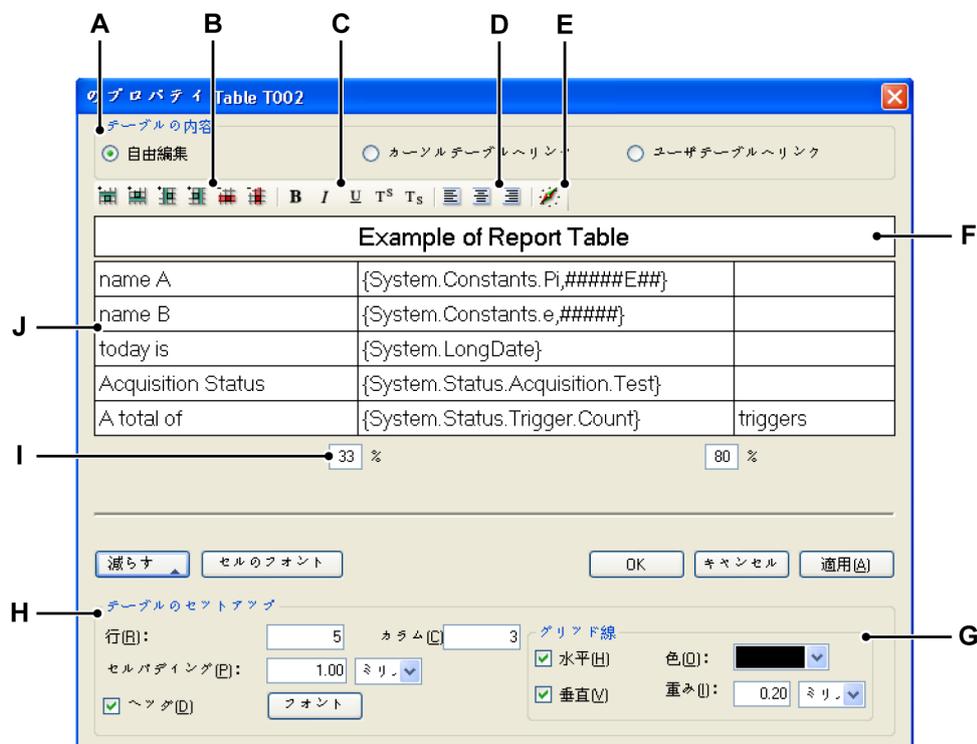


イラスト 1.13: レポートテーブルオブジェクトのプロパティ - レポートテーブル

- A テーブルの内容を選択します。自由編集、カーソルテーブルへのリンク、またはユーザーテーブルへのリンク
- B 列およびカラムを挿入/削除します。
- C オブジェクト属性を設定します。
- D アライメントを設定します。
- E 変数を挿入/フォーマットします。
- F テーブルヘッダ
- G グリッド線の設定
- H グローバルテーブルのセットアップ
- I カラムセパレータの配置
- J カラムと列のマトリックス：セル

ノート リンクされたテーブルには、すべてのオプションが利用できるわけではありません。

イラスト 1.13 ページ 36 に示すように、以下の画像は内容と設定を含むテーブルの一例です。

Example of a Report Table		
name A	3.142E+00	
name B	2.718	
today is	vrijdag 24 maart	
time	10:05:15	
Acquisition status	Run	
A total of	12	triggers

A テーブルの種類

3つの種類のテーブルを選ぶことができます。

- **自由編集**これは、設定を自由に行える標準的なテーブルです。
- **カーソルテーブルへのリンク**これは事前に定義されたテーブルです。セットアップ内容と値はカーソルテーブルからコピーされます。接続したい表示部と表示部のページを選択することができます。また、フォーマットとカーソルを選択するためのオプションがあります。小さな変更をレイアウトに加えることが可能です。詳細については"カーソルテーブルの追加設定" ページ 43 を参照してください。
- **ユーザテーブルへのリンク**ユーザテーブルとはユーザ設定が可能なテーブルで、(中間) スカラー結果、テキスト、システムの定数と変数など、あらゆる非波形データソースを表形式で表示するために使用することができます。ユーザテーブルの詳細については、Perception のマニュアルに含まれる「ユーザテーブル」の章を参照してください。

B, J 列、カラム、およびセル

通常、テーブルには列とカラムで構成される本体と、テーブル全体に広がるヘッダが存在します。列とカラムが交わって形成されるのがテーブルセルで、それぞれのセルにテキスト、変数、またはこれら両方を含めることができます。

テーブルマトリックスを拡張または縮小する方法

- テーブルプロパティのダイアログで、**More (詳細)** のオプションが示されていることを確認します。テーブルのセットアップのセクションに、必要なカラムと列の数を入力します。

単一の列またはカラムを追加する方法

- 新しい列またはカラムを表示させたい位置に隣接するセルを選択してください。ツールバーで、ボタン  の前にある列を追加する、ボタン  の後にある列を追加する、ボタン  の前にあるカラムを追加する、またはボタン  の後にあるカラムを追加するをクリックしてください。

単一の列またはカラムを削除する方法

- 削除したい列またはカラムに含まれるセルを選択してください。ツールバーで、削除が選択された列のボタン 、または削除が選択されたカラムのボタン  をクリックしてください。

C テキスト属性

セルのフォントオプションを使用して、セルにおけるテキストの一般的な表示方法を設定することができます。セルに含まれるテキストの一部を変更することも可能です。

テキストの選択方法

テキストカーソルを使って、以下のいずれかを実施してください。

- 文字、単語、またはテキストブロック全体をドラッグして選択します。
- 単語を1つダブルクリックして選択します。その単語に隣接するスペースは選択されません。
- 行の任意の場所でトリプルクリックすると、その行を選択できます。

テキストの一部の表示を変える方法

- 変更を加えたいテキストを選択してください。
- ツールバーで、太字 **B**、斜字体 *I*、下線 U、上付き文字 ^{T₉}、または下付き文字 _{T₈} というフォーマットボタンのいずれか一つまたは複数を選択してください。

D アライメント

各セルについて、セル内のテキストのアライメントを設定することができます。

アライメントの設定方法

- 1 変更を加えたいセルを選択してください。
- 2 ツールバーで、左詰めボタン 、中央揃えボタン 、または右詰めボタン  を選択してください。

テキストを挿入します。

セルにテキストを挿入するには、セルを選択して入力を開始してください。

E 変数を挿入およびフォーマットします。

セルに変数を入力し、出力をフォーマットすることができます。変数は、セルの中でテキストと組み合わせることができます。

変数の挿入方法

- 1 変数を挿入したいセルを選択します。テキストカーソルを交点に配置してください。
- 2 ツールバーにあるデータソースを追加ボタンをクリックしてください。データソースを挿入ダイアログが表示されます。このダイアログの詳細については、Perceptionのマニュアルに含まれる「データソースのプロパティ」の章を参照してください。



イラスト 1.14: データソースダイアログを挿入する

- 3 左側にある一覧でソースを選択し、値、名前、および単位のうち使用したいパラメータを選択してください。オプションとして、値の表記とフォーマットを定義してください。
- 4 OKをクリックします。これで、例えば{アクティブ.グループ1.レコーダ_A.Ch_A3.平均!値}のようにその変数のリファレンスがセルに入力されます。

テーブルのプロパティのダイアログを閉じると、提供された情報によってテーブルが更新されます。例えば記録がまだ実行されていないために、実データが利用できない場合は、プレースホルダが表示されます。記録の後、およびリフレッシュレポートの後に、実際のデータが入力されます。(「レポートのリフレッシュ」ページ 30 を参照してください。)

変数のフォーマット方法

- 1 まだデータを挿入ダイアログが開かれていないときは、テキストカーソルを変数のプレースホルダのいずれかの場所に配置して、データソースを追加をクリックします。



イラスト 1.15: 値のプロパティ (データソースを挿入ダイアログの詳細)

- 2 **表記:** このダイアログでは、ドロップダウンコンボボックスに示される複数の出力フォーマットから選択することができます。
 - **未フォーマット:** 元の情報を引き継ぎます。
 - **整数:** 小数を伴わない数
 - **浮動小数点:** 小数を伴い、固定「レイアウト」のない数。
 - **固定小数点:** 小数を伴い、小数点の前後に固定した桁数のある数。
 - **科学表記:** 非常に大きな数や非常に小さな数を書き表すための省略表現。科学表記で表現される数は、1と10の間の小数に、10の累乗を掛けたものとして表現されます。
 - **工学表記:** 10の累乗が3の倍数である科学表現。10の累乗は、キロやミリなどの接頭辞によって表現されます。
- 3 各出力フォーマットについて、必要な桁数を選択することができます。
- 4 選択を行い、完了したら **OK** をクリックします。

値のプロパティのエリアで選択を行うたびに、PIの値を例として、出力の例と対応するプレースホルダが与えられます。

データソースの名前または単位の追加方法

変数の名前または単位を追加することができます。

- 1 まだデータを挿入ダイアログが開かれていないときは、テキストカーソルを変数のプレースホルダのいずれかの場所に配置して、データソースを追加をクリックします。



イラスト 1.16: 名前または単位 (データソースを挿入ダイアログの詳細) を挿入します。

- 2 名前または単位を選択して、OK をクリックします。すべての選択をクリアすると、デフォルトの値が入力されます。値をクリアしても、名前および (または) 単位を選択すると、値は使用されません。

F テーブルヘッダ

テーブルヘッダの存在の有無を選択することができます。また、グローバルセルフォントとは異なるフォントをヘッダのために選択することができます。テーブルセットアップのセクションでこれらの選択を行います。

G グリッド線

グリッド線とは、列とカラムの間に存在する線です。これらの線に色とライン重量を適用することができます。垂直および水平のセパレータの ON と OFF を個別に切り換えることができます。

ノート

テーブルの周囲にある境界は、"オブジェクトの容器" ページ 15 で説明されるように、容器のプロパティを通して設定されます。

H グローバルテーブルのセットアップ

グローバルテーブルのセットアップで、テーブルの列とカラムの数を定義することができます。ここではヘッダが必要であるかを指定し、ヘッダが必要である場合はヘッダテキストのフォントを指定します。セルパディングとはテキスト周囲の空間です。すなわち、テキストとグリッド線の間の距離を指します。

I カラムのサイズ調整

カラムセパレータの相対的な位置を指定することで、カラムの幅を設定することができます。セパレータの下のボックスに、これらの値を直接入力します。

カーソルテーブルの追加設定

カーソルテーブルの追加設定には、ソースの選択、フォーマット、およびカーソルの選択があります。



イラスト 1.17: レポートテーブルオブジェクトのプロパティ - カーソルテーブルの設定

- A ソースを選択します。表示部と表示部の中のページ
- B 書式付け (フォーマット): 工学書式または科学書式を選択します。
- C カーソル: 具体的なカーソルの値を示します。

A テーブルソースを選択します。
ここでは表示させたい表示部のソースを選択します。表示部一覧には、現在表示されているか否かに関係なく、ワークベンチで利用可能なすべての表示部を示します。ページ一覧により、選択された表示部の中でページを1つ選択することができます。

B 書式付け
ここでは、数のフォーマットについて選択を行います。工学または科学。これらのフォーマットの詳細については、「変数のフォーマット」の項目を参照してください。

C カーソル
垂直測定カーソルの値が標準として示されます。含めたい値を選択してください。水平カーソルの測定値、および (または) 傾きカーソルの測定値。

ユーザテーブルの追加設定

ユーザテーブルのために行う追加的な設定が一つあります。ソースを選択します。



ここでは使用したいユーザテーブルを選択します。一覧には、現在のワークベンチで利用できるすべてのユーザテーブルを示します。

1.8.4 テキストを挿入します。

ランダムテキストを任意の場所に挿入することができます。テキストには変数が含まれていても構いません。テキストは単純なラベル、またはテストのセットアップを説明する完全な文章とすることができます。

"オブジェクトの操作" ページ 10 で説明されるように、テキストオブジェクトを挿入します。以下のいずれかのオプションを使って、テキストオブジェクトのプロパティにアクセスします。

- テキストオブジェクトを配置すると、すぐにプロパティのダイアログが表示されます。
- マウスのカーソルをテキストのオブジェクトに置き、オブジェクトをダブルクリックします。
- オブジェクトを右クリックしてください。表示されるコンテキストメニューで、**プロパティ...**を選択します。

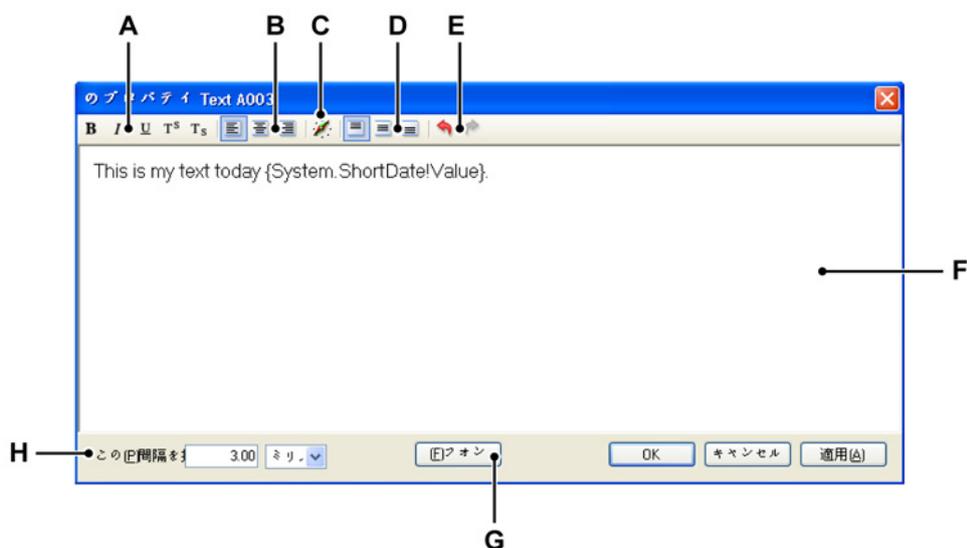


イラスト 1.18: レポートテキストオブジェクトのプロパティ

- A オブジェクト属性を設定します。
- B 水平アライメントを設定します。
- C 変数を挿入およびフォーマットします。
- D 垂直アライメントを設定します。
- E 取り消し/やり直し
- F テキストエリア
- G グローバルテキストのフォント選択
- H 間隔を挿入します。

テキストを入力します。

テキストを入力するには、カーソルをテキストエリアに置いて入力を開始してください。

- A, G** フォントオプションを使用して、テキストの一般的な表示方法を設定することができます。テキストの一部を変更することも可能です。

テキストの選択方法

テキストカーソルを使って、以下のいずれかを実施してください。

- 文字、単語、またはテキストブロック全体をドラッグして選択します。
- 単語を1つダブルクリックして選択します。その単語に隣接するスペースは選択されません。
- 行の任意の場所でトリプルクリックすると、その行を選択できます。

テキストの一部の表示を変える方法

- 1 変更を加えたいテキストを選択してください。
- 2 ツールバーで、太字 **B**、斜字体 *I*、下線 U、上付き文字 ^{T_s}、または下付き文字 _{T_s} というフォーマットボタンのいずれか一つまたは複数を選択してください。

B 水平アライメント

テキストのエリアで、水平テキストアライメントを設定することができます。

水平アライメントの設定方法

- ツールバーで、左詰めボタン 、中央揃えボタン 、または右詰めボタン  を選択してください。

- C 変数を挿入およびフォーマットします。**
テキストに変数を入力し、出力をフォーマットすることができます。

変数の挿入方法

- 1 テキストカーソルを交点に配置してください。
- 2 ツールバーにあるデータソースを追加ボタンをクリックしてください。データソースを挿入ダイアログが表示されます。



イラスト 1.19: データソースダイアログを挿入する

- 3 本書の前の部分で説明するように、このダイアログでソース、パラメータ、およびフォーマットを選択します。
- 4 OK をクリックします。これで、フォーマットのオプションがある変数へのリファレンスがテキストに入力されます。

- D 垂直アライメント**
テキストのエリアで、垂直テキストアライメントを設定することができます。

垂直アライメントの設定方法

- ツールバーで、上詰めボタン、中間揃えボタン、または下詰めボタンを選択してください。

E 取り消し/やり直し

いくつかのアクションの取り消し、またはやり直しが可能です。そのような場合、ツールバーにある対応するボタンが有効化されます。

アクションを取り消す方法、またはやり直す方法

- あるアクションを取り消すには、**取り消すボタン**  をクリックしてください。
- あるアクションをやり直すには、**やり直すボタン**  をクリックしてください。

F テキストエリア

テキストエリアにテキストを配置します。このエリアの背景と境界は、「容器のプロパティ」ページ 15 で説明されるように、容器のプロパティを通して設定されます。

H 挿入

挿入空間とはテキスト周囲の空間です。すなわち、テキストとテキストオブジェクトの境界の間の距離を指します。

1.8.5 グラフィックオブジェクトを挿入する

Perception レポートは、線、長方形、および楕円形というグラフィックオブジェクトを提供します。

"オブジェクトの操作" ページ 10 で説明されるように、これらのオブジェクトを挿入します。以下のいずれかのオプションを使って、各オブジェクトのプロパティにアクセスします。

- マウスのカーソルをオブジェクトに置き、オブジェクトをダブルクリックします。
- オブジェクトを右クリックしてください。表示されるコンテキストメニューで、**プロパティ...**を選択します。



イラスト 1.20: レポートの線、長方形、および楕円形というオブジェクトのプロパティ

ここでは必要な変更をすることができます。

1.8.6 画像を挿入する

画像、企業ロゴなどを挿入、拡大、縮小し、レポートに配置することができます。

"オブジェクトの操作" ページ 10 で説明されるように、画像オブジェクトを挿入します。以下のいずれかのオプションを使って、画像オブジェクトのプロパティにアクセスします。

- 画像オブジェクトを配置すると、すぐにプロパティのダイアログが表示されます。
- マウスのカーソルを画像オブジェクトに置き、オブジェクトをダブルクリックします。
- オブジェクトを右クリックしてください。表示されるコンテキストメニューで、**プロパティ...**を選択します。



イラスト 1.21: レポート画像オブジェクトのプロパティ

- A 画像ソース
- B 画像のサイズ
- C フレーム (容器) への画像のフィットティング
- D 画像を埋め込む
- E 画像を元のサイズに復元する
- F 縦横比を固定

A 画像ソースを選択する

現在最もよく使われるビットマップとベクトル画像の形式がサポートされています。

画像の選択方法：

- 1 画像プロパティのダイアログで**ブラウズする...**をクリックしてください。
- 2 **レポートに追加する画像ファイルを開く...**ダイアログで、含めたいファイルを選択して**開く**をクリックします。
- 3 プロパティのダイアログで必要に応じて変更を加え、完了したら**OK**をクリックしてください。

B, F 画像サイズ

画像が読み込まれると、元のサイズがここに表示されます。サイズは、OS が解像度 (ピクセル数) と DPI (インチ毎のドット数) を乗算して算出されます。利用可能な DPI 情報が画像にないとき、画面の DPI 設定 (通常 96 または 120) が使用されます。

画像サイズの変更方法

- 1 画像プロパティダイアログを開きます。
- 2 現在の幅と高さの比率を維持するには、**プロパティの制限**を選択します。プロパティの制限アイコンがロックされているとき 、画像のアスペクト比は固定されます。すなわち、一つの値を変更すると他の値も自動的に更新されます。プロパティの制限アイコンが壊れているときは 、幅と高さを自由に設定することができます。画像に歪みを生じさせます。
- 3 **幅と高さ**について新しい値を入力してください。
- 4 オプションの設定が完了したら、**OK** ボタンをクリックしてください。

C, E 画像フィッティング

上述のように、画像オブジェクトは容器の中に配置されます。容器（フレーム）と画像のフィッティング方法を指定できます。様々な可能性を試してください。

- **画像をフレームに合わせる** フレームに合うように画像の大きさを調節し、コンテンツの縦横比を変更します。フレームは変化しませんが、コンテンツとフレームの縦横比が異なる場合、コンテンツが拡大されて表示される場合があります。
- **フレームを画像に合わせる** コンテンツに合うようにフレームのサイズを調整します。コンテンツの縦横比に合わせて、フレームの縦横比が必要に応じて変更されます。この機能は、サイズを不意に変更してしまったグラフィックフレームのサイズを再設定する際に役立ちます。
- **画像を中央に配置** コンテンツをフレームの中央に配置します。フレームの縦横比とコンテンツは保持されます。
- **縦横比を固定して画像を合わせる** コンテンツの縦横比を保持しながら画像の大きさをフレームに合わせてみます。フレームの寸法は変更されません。コンテンツとフレームの縦横比が異なる場合、空白のスペースが生じます。

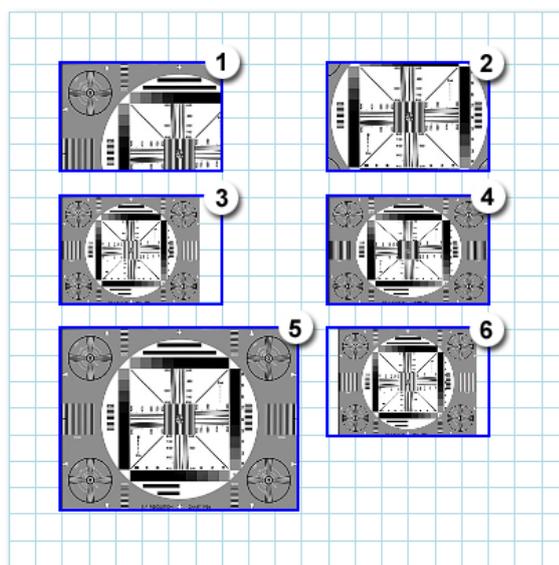


イラスト 1.22: 画像フィッティングの例

- 1 フィッティングなし
- 2 フィッティングなし -> 画像を中央に配置
- 3 縦横比を固定して画像を合わせる
- 4 画像をフレームに合わせる
- 5 フレームを画像に合わせる
- 6 縦横比を固定して画像を合わせる -> 画像を中央に配置

これらのオプションを試す場合、**画像を元のサイズに復元ボタン**を使用することが必要となる場合があります。

D 画像を埋め込む

画像を仮想ワークベンチに埋め込むには、**データを保存**を選択します。

1.8.7 ヘッドとフッタを配置する

ヘッドとフッタの位置は固定されています。ヘッドまたはフッタを追加するには、ツールエリアにあるヘッドまたはフッタのボタンをクリックしてください。表示されるダイアログで、ヘッドまたはフッタのテキストおよびレイアウトを入力します。

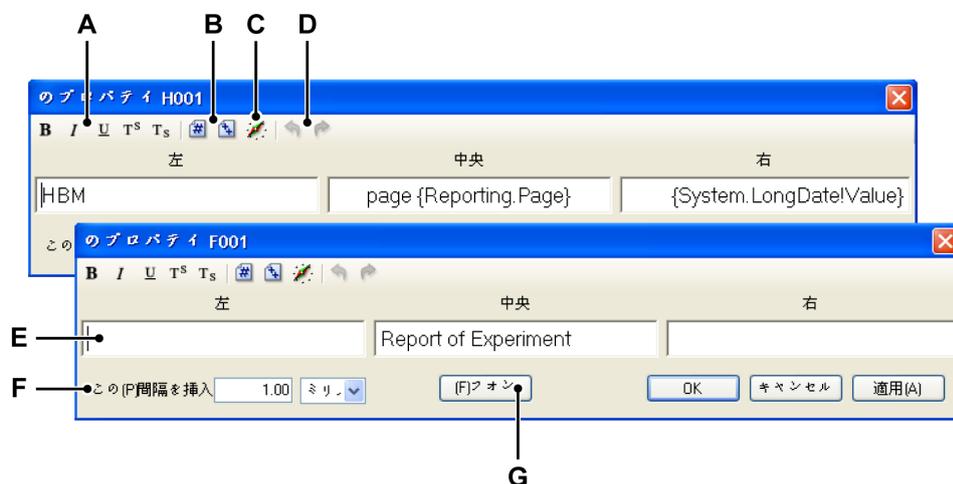


イラスト 1.23: レポータヘッド/フッタオブジェクトのプロパティ

- A オブジェクト属性を設定します。
- B ページ番号/ページ数を挿入する
- C 変数を挿入およびフォーマットします。
- D 取り消し/やり直し
- E テキストエリア
- F 間隔を挿入します。
- G グローバルテキストのフォント選択

ヘッドとフッタはアライメントが固定された3つのテキストエリアを持っています。すなわち、ページ左側、ページ中央、およびページ右側のためのテキストエリアです。各テキストエリアについて、以下に説明する技術を使ってください。

テキストを入力します。

テキストを入力するには、カーソルをテキストエリアに置いて入力を開始してください。

A, G テキスト属性

フォントオプションを使用して、テキストの一般的な表示方法を設定することができます。テキストの一部を変更することも可能です。

テキストの選択方法

テキストカーソルを使って、以下のいずれかを実施してください。

- 文字、単語、またはテキストブロック全体をドラッグして選択します。
- 単語を1つダブルクリックして選択します。その単語に隣接するスペースは選択されません。
- 行の任意の場所でトリプルクリックすると、その行を選択できます。

テキストの一部の表示を変える方法

- 1 変更を加えたいテキストを選択してください。
- 2 ツールバーで、太字 **B**、斜字体 *I*、下線 U、上付き文字 ^{T_s}、または下付き文字 _{T_s} というフォーマットボタンのいずれか一つまたは複数を選択してください。

B ページ番号/ページ数を挿入する

現在のページ番号と合計のページ数を挿入することができます。

ページ番号/ページ数を挿入する方法

- 1 テキストカーソルを交点に配置してください。
- 2 ページ番号アイコン  または ページ数アイコン  をクリックして、 プレースホルダをテキストに挿入します。

- C 変数を挿入およびフォーマットします。**
 テキストに変数を入力し、出力をフォーマットすることができます。

変数の挿入方法

- 1 テキストカーソルを交点に配置してください。
- 2 ツールバーにあるデータソースを追加ボタンをクリックしてください。データソースを挿入ダイアログが表示されます。



イラスト 1.24: データソースダイアログを挿入する

- 3 本書の前の部分で説明するように、このダイアログでソース、パラメータ、およびフォーマットを選択します。
- 4 OK をクリックします。これで、フォーマットのオプションがある変数へのリファレンスがヘッダまたはフッタのテキストに入力されます。

D 取り消し/やり直し

いくつかのアクションの取り消し、またはやり直しが可能です。そのような場合、ツールバーにある対応するボタンが有効化されます。

アクションを取り消す方法、またはやり直す方法

- あるアクションを取り消すには、**取り消すボタン**をクリックしてください。
- あるアクションをやり直すには、**やり直すボタン**をクリックしてください。

E テキストエリア

テキストエリアにテキストを配置します。

F 挿入

挿入空間とはテキスト周囲の空間です。すなわち、テキストとテキストオブジェクトの境界の間の距離を指します。

1.8.8 ズームしたエリアをスクロール/パンします。

文書エリアにページ全体を表示させることができない場合は、ナビゲートしてページの別のエリアをビューに含めることができます。

ツールのパレットにあるパンツールを使用して、パンをページにドラッグします。

また、ナビゲートエリアにはズームエリアインジケータが表示されます。このエリアをクリックして、新しい位置にドラッグすることができます。マウスから指を離すと、レポートのページが更新されます。

1.8.9 ズーム

ツールのパレットにあるズームツールを使用してページエリアにズームエリアを自由に設定するか、下部ツールバーにあるズーム選択コントロールを使用して事前定義したズーム係数を利用します。

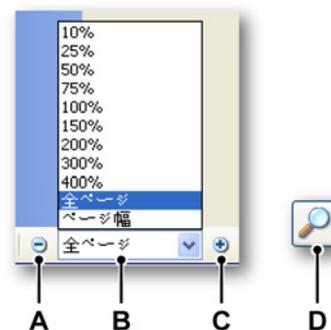


イラスト 1.25: レポートのズームツール

- A ズームレベルを小さくする
- B ズームレベルを選択する
- C ズームレベルを大きくする
- D ツールのパレットにあるズームツール：フリースタイルのズーム。クリックおよびドラッグして、ズームエリアを選択します。

- A **ズームレベルを小さくする**
小さくするボタンをクリックしてズームアウトします。クリックを1回行う毎に、設定されている次に小さいパーセンテージに表示が小さくなります。ページが最大限の縮小レベルに到達すると、ボタンは淡色表示されます。

- B **ズームレベルを選択する**
ズームレベルのポップアップメニューをクリックして、ズームレベルを選択します。

- C **ズームレベルを大きくする**
大きくするボタンをクリックしてズームインします。クリックを1回行う毎に、設定されている次に大きいパーセンテージに表示が拡大されます。ページが最大限の拡大レベルに到達すると、ボタンは淡色表示されます。

- D **ズームツールの使用**
ドラッグを行って拡大する方法
 - 1 **ズームツールを選択します。**
 - 2 **拡大したいページの部分をドラッグします。**

1.9 ワードへのレポート

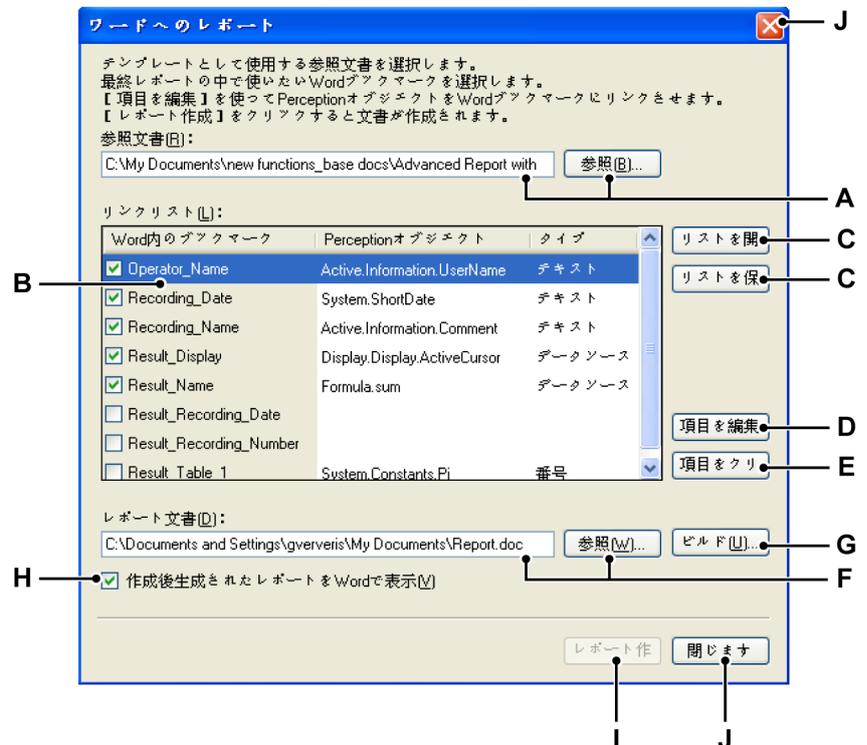
1.9.1 はじめに

レポータオプションには、レポートシートの他に高度な「ワードへのレポート」という機能が組み込まれています。この機能は、自動化メニューの中に存在します。ワードへのレポートの機能により、Perception のオブジェクトを Microsoft Word のテンプレートの事前に指定された場所に配置することができます。これを行うことで、テストが終了する毎にワードによるレポートを全く同じレイアウトで作成することができます。切り取りと貼り付けの手順を行うことなく、自身のテキストとレイアウトを Perception からの動的なデータとワードの中で組み合わせることが可能で、必要に応じて完全なカスタマイズと自動化を実現できます。

1.9.2 リンクの一覧を作成する

クイックレポートが常に新しい空の文書を生成し、オブジェクトをそれぞれ下に配置するように、ワードへのレポートの機能により、Perception のオブジェクトを事前に定義したテンプレート内の場所に配置することができます。これにより、テストが終了する毎にレポートを全く同じレイアウトで作成することができます。指定された位置に配置することに加え、お好みに合わせてオブジェクトを完全に設定することも可能です。ワードへのレポートは、手動または自動にて始動できます。

すべての設定は以下のダイアログで定義されます。



- A 使用される**参考文書**
- B Perception のオブジェクトにリンクしているブックマークを含む**リンク一覧**
- C リンク一覧を開く、または保存するためのボタン
- D 選択された項目のセットアップを行う**項目を編集**
- E 選択された項目をクリアする**項目をクリア**
- F 生成される**報告資料**
- G 保存パスとファイル名を構築するダイアログを開く**構築**
- H 作成後に生成されたレポートをワードで表示する**チェックボックス**
- I 報告を開始する**今すぐ報告する**
注意このボタンは、自動化アクションとして設定されている場合は使用できません。
- J ダイアログを閉じてすべての設定を保存する**閉じる**

ダイアログの一番上には**参考文書**の選択があります。資料の名前を直接入力するか、**参照する**を使ってファイルを見つけることができます。**参照する**コマンドを使うと、共通のファイルを開くダイアログが表示されます。

参考文書が開くと、**リンク一覧**が表示されます。リンク一覧は、以下のカラムで構成されています。

- 1 **ワード内のブックマーク**：参考文書に存在するブックマークの一覧。各ブックマークにはチェックマークがあります。これを選択すると、ブックマークが使用され、Perception のオブジェクトに置き換えられます。これにより、以下を行うことが可能になります。
 - A 特定の出力資料のために必要な情報以上の情報を含む（デフォルトの）リンク一覧を作成します。
 - B ブックマークを他の目的のためにも使用する参考文書を開きます。
- 2 **Perception オブジェクト**：ブックマークにリンクした Perception オブジェクトの名前。
- 3 **タイプ**：選択されたオブジェクトの種類。このフィールドは編集することができません。

今後使用するために、**一覧を保存...**をクリックしてリンク一覧を保存します。このコマンドにより、共通のファイルを保存するダイアログが表示されます。

既存のリンク一覧を読み込むには、**一覧を開く...**をクリックします。このコマンドにより、共通のファイルを開くダイアログが表示されます。

オブジェクトを追加、または既存のリンクを変更するには、**項目を編集...**をクリックします。このコマンドにより、リンクを編集するダイアログが表示されます。このダイアログではオブジェクトを追加し、別のオブジェクトを選択し、またフォーマット化情報を入力することができます。

項目をクリアをクリックして、Perception のオブジェクトフィールドをクリアします。これによってブックマークは削除されません。このコマンドについては、複数選択が可能です。

レポートの後、ワード内の実際のレポートアクションの結果を閲覧したい場合は、**作成後にワード内で生成された報告を閲覧する**を選択してください。

レポート資料の選択を使用して、出力（結果）ファイルの定義が行われます。資料の名前を直接入力するか、**参照する**をクリックしてファイルを見つけるか、**保存パスとファイル名を構築する**ダイアログを通して出力パスを構築することができます。**参照する**コマンドを使うと、共通のファイルを開くダイアログが表示されます。

今すぐ報告するをクリックしてレポートを作成します。

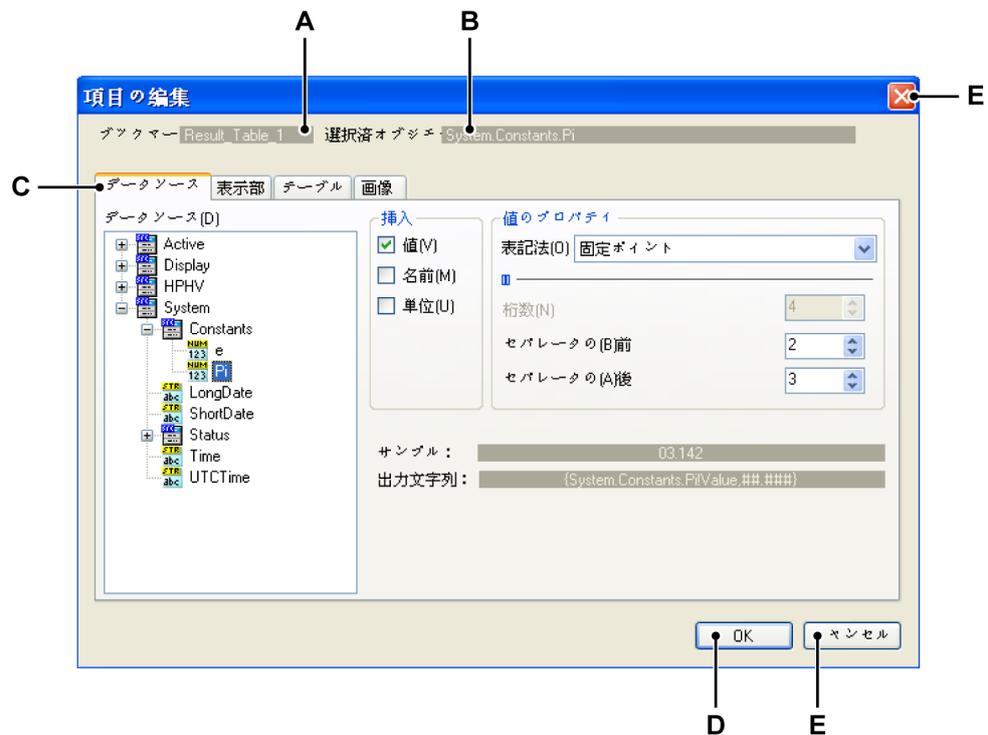
閉じるをクリックしてダイアログを閉じます。今後使用できるように、すべての設定が保存されます。

すべての設定は仮想ワークベンチ、および作成された記録と共に保存されます。

ノート ブックマークの挿入方法に関する詳細については、お使いの Microsoft ワードの文書を参照してください。例の参考ファイルは、Perception のインストール後、共有される文書のフォルダを見つけることができます。この例のファイルでは、参考ファイルのセットアップ方法が説明されています。

1.9.3 項目をリンクする

参考ファイルからのブックマークは、Perception のオブジェクトにリンクされる必要があります。リンクをセットアップするには、**項目を編集...**ダイアログが使用されます。ダイアログはタブ付きダイアログとして編成されます。タブは、複数の独占的な選択肢およびそれぞれのオプションを提示するために使用されます。選択されたタブのみが適用され、その他のタブは無視されます。



- A ブックマークフィールド
- B 選択されたオブジェクトのフィールド
- C Perception のオブジェクトを示すタブ
- D OK ボタン
- E キャンセルボタン

ダイアログの最上部エリアには、(前に) 選択されたブックマーク、および現在選択されているオブジェクトが表示されます。これらのフィールドは編集することができません。OK をクリックすると、このリンクが使用されることになります。キャンセルをクリックするとすべての変更または進行中の作業が破棄され、前の状態に戻り、ウィンドウが閉じられます。

あるタブから別のタブに切り換えると、選択されたタブ内のオブジェクトを反映して**選択されたオブジェクト**フィールドが変更されます。

それぞれのタブ、およびオブジェクトのタイプは一連の独自のプロパティを持っています。オブジェクトを Perception レポートに挿入するとき使用されるように、これらのプロパティは現在使用可能な一連のプロパティから派生しています。

1.9.4 リンクされたオブジェクトを持つワードのレポートを生成する

レポートは、手動または自動にて始動できます。いずれの場合にも、ワードへのレポートダイアログを使用して出力ファイルのセットアップが行われます。しかし、自動化のために**今すぐ報告する**ボタンを使用することはできません。

ノート 項目が**選択**されても**リンク**されていない場合、ワード内のブックマークは「---」によって置き換えられます。

ワードのレポートをセットアップするには、コアシナリオに従う必要があります。

- 1 メニューまたは自動化から**ワードへのレポート**ダイアログを開いてください。
- 2 **参考文書**を選択します。参考文書は、すべてのブックマークを含んでいるワード文書です。
テキストボックスに指定される参考文書により、該当するファイルが再度読み込まれることになります。
- 3 参考文書が読み込まれると、ブックマークが文書から読み込まれてリンク一覧に配置されます。参考文書が存在しない場合、一覧は空になります。
- 4 次に、どの **Perception オブジェクト**がどの**ワード内のブックマーク**にリンクされるのかを定義します。 **項目を編集...**をクリックして**項目を編集する**ダイアログボックスを開きます。
- 5 必要とされない項目の選択は解除してください。
- 6 生成されたレポートを含む**レポート文書**を選択します。ファイルが存在しない場合は生成されます。
- 7 生成されたレポートをワードで表示するかを選択します。
- 8 **今すぐ報告する**をクリックしてレポートを作成します。

索引

は	
はじめに	7
*	
オブジェクト	
アライメント	20
スケーリング	12
境界枠	19
属性	17
属性/サイズ	17
属性/ロック	18
属性/位置	17
属性/繰り返し	18
挿入	10
移動	12
積み重ね	13
選択	11
オブジェクトの容器	15
例	16
容器のプロパティ	15
オブジェクトの操作	10
余白、グリッド、およびラベル	13
複数のオブジェクトを選択する	11
グリッド	13, 27
スクロール/ズーム	21
ズーム	21
プリンタ余白	13
ページ	
サイズ	26
削除	24, 28
挿入	24, 28
方向	26
選択	22
ページのナビゲーション	21
ズームの選択	21
ズームエリアの移動	22
ページの選択	22
ユーザ余白	13, 26
ラベル	13
レポートのセットアップ	25
レポートメニュー	25
グリッド設定	27
グリッド設定/グリッドにスナップ	27
グリッド設定/グリッドを表示	27
ページを削除	28
ページを挿入	28
レポートのセットアップ/サイズ	26
レポートのセットアップ/ページ数	26
レポートのセットアップ/ユーザ余白	26
レポートのセットアップ/単位	26
レポートのセットアップ/方向	26
レポートのセットアップ/開始ページ	26
レポートをリフレッシュ	30
レポートをワードに転記	31
レポートを保存	30
レポートを印刷	31
レポートを画像として保存	30
レポートを読み込む	28
レポートシートを移動	31
ワークエリア	8
ワードへのレポート	
はじめに	56
リンク一覧を作成する	56
使用許諾契約	3
保証	3
容器	15
設計ツール	32
カーソルテーブルの追加的な設定	43
グラフィカルオブジェクトを挿入	47
ズーム	54
ズームしたエリアのスクロール/パン	54
テキストを挿入	44
テーブルを挿入	35
ヘッダとフッタを挿入	51
ポインタ/セクタ	32
表示部を挿入	33
高度なレポート	
リンクされたオブジェクトを持つワードのレポートを生成する	60
項目をリンクする	59

Head Office

HBM

Im Tiefen See 45
64293 Darmstadt
Germany
Tel: +49 6151 8030
Email: info@hbm.com

France

HBM France SAS

46 rue du Champoreux
BP76
91542 Mennecy Cedex
Tél: +33 (0)1 69 90 63 70
Fax: +33 (0) 1 69 90 63 80
Email: info@fr.hbm.com

Germany

HBM Sales Office

Carl-Zeiss-Ring 11-13
85737 Ismaning
Tel: +49 89 92 33 33 0
Email: info@hbm.com

UK

HBM United Kingdom

1 Churchill Court, 58 Station Road
North Harrow, Middlesex, HA2 7SA
Tel: +44 (0) 208 515 6100
Email: info@uk.hbm.com

USA

HBM, Inc.

19 Bartlett Street
Marlborough, MA 01752, USA
Tel : +1 (800) 578-4260
Email: info@usa.hbm.com

PR China

HBM Sales Office

Room 2912, Jing Guang Centre
Beijing, China 100020
Tel: +86 10 6597 4006
Email: hbmchina@hbm.com.cn

© Hottinger Baldwin Messtechnik GmbH. All rights reserved.
All details describe our products in general form only.
They are not to be understood as express warranty and do
not constitute any liability whatsoever.

measure and predict with confidence

